

# 韓国企業が視察

## 認知症対策へ「必要」

### 津の明合乃里会が開発したPCソフト 「ブレインリハビリテーション」 計算や文字の並べ替えなど、ゲーム感覚で

【津】韓国で認知症予防のためのプログラムを研究する企業の代表が十一日、津市安濃町東観音寺の社会福祉法人明合乃里会（永田博一理事長）を訪れ、同会が独自で開発したパソコン



永田理事長（右から2人目）らの説明でソフトを体験する金代表理事（左） 〓津市安濃町東観音寺の「介護老人保健施設あろう」で

ソフト「ブレインリハビリテーション」の実践状況を視察した。訪れたのは、韓国で介護施設を経営する「エンジェル・ホームケア」代表理事の金燦雄さん（五三）。韓国政府の援助を受け、認知症に対応する人材の育成や予防のための研究をする中で、介護現場で開発した同会のソフトに注目し、来日した。

金さんは、同会の「介護老人保健施設あろう」で、ソフトを開発した医師の永田理事長（五三）から説明を受け、タッチパネルを使って実際に体験。計算や文字の並べ替えなど、ゲーム感覚でできる二十二種類のメニューを次々に試した。デスクアの利用者が同ソフトで機能回復訓練をする様子も視察し、「楽しいですか」などと声を掛けていた。

韓国では急速な高齢化で、認知症が深刻な問題になっているという。金さんは、「これまで見た中でこのソフトは今の韓国の現状に一番必要。早くシステムを導入して認知症の人の役に立てたい」と、話していた。

（川村）